

記者会見要旨

日 時：平成 30 年 5 月 30 日（水）午後 4 時 30 分～午後 5 時

場 所：東京証券会館 9 階 第 9 会議室

出席者：鈴木会長、森本副会長、石黒政策本部・共同本部長

冒頭、森本副会長から自主規制会議及び理事会の審議事項の概要について、石黒政策本部・共同本部長から証券戦略会議等の状況について、それぞれ説明が行われた後、大要、次のとおり質疑応答が行われた。

（記者）

3 月期決算企業の株主総会シーズンが本格化するが、コーポレートガバナンス・コードの改訂や投資家と企業の対話ガイドライン、さらには ESG 投資の推進などの注目点があると思うが、どのような点に注目されているか見解を伺いたい。

（鈴木会長）

大きく 2 点あると思うが、1 点目はご指摘のとおり、コーポレートガバナンス・コードの改訂である。基本的には「社外取締役を 3 分の 1 以上」及び「女性取締役の選任」を求めているわけだが、ISS のような議決権行使助言会社がどのような反応をしてくるかということが注目点だと思っている。いずれにしても、ISS などの議決権行使助言会社の影響力は非常に大きいので、どのような反応になるか注目しているところである。

もう 1 点は、株主総会の分散化である。株主総会の開催日については、90 年代は 9 割以上集中していたが、現在は 3 割程度と低下している。企業においては、長期的な企業の成長について中長期的に株主との対話等ができるよう、これまでの形式的な株主総会ではなく、実質的な対話の形として、透明性の高い株主総会を開催していただきたいと考えている。

（記者）

「つみたて NISA」の口座数についての受け止めと、制度上の使い勝手の改善としてどのようなことを求めているか。

（鈴木会長）

これまでも申し上げてきたように「つみたて NISA」は「一般 NISA」のような口座の伸び方はなかなか難しく、長い時間を掛けて普及していくものと考えている。なぜなら「つみたて NISA」はこれまで投資の経験のない方、あるいは若い人たちをターゲットと考えているためである。「つみたて NISA」の口座数において新規の比率が非常に高いということはこのことの何よりの証拠であり、極めて順調であるというのが私の感想である。

以前も申し上げたが、ドル・コスト平均法の効果が現れるには数年が必要である。私は良さが分かるには 5 年～10 年はかかると見ている。5 年、10 年と積み立ててきた人が、非常に高いパフォーマンスとなったときに、お酒を飲んだ席などで友達に「お前やっているか、これはなかなかいいぞ」というような口コミや、SNS を通じた口コミが広がることで、どこかで口座数が爆発的に増えると思う。

制度面の要望としては「つみたて NISA」は投資可能期間が決まっているため、今年から始めた人は 20 年間×40 万円で、800 万円の投資ができるが、来年から始める人は 19 年しか積み立てられない。再来年は 18 年と、どんどん減っていつてしまう。そういう意味では、「20 年間」という話が嘘の話になってしまうため、我々としてはどうしても投資可能期間を伸ばしてもらいたい。そして「つみたて NISA」を国民の老後に向けた資産形成に資する大きな制度にしていきたい。

（記者）

今日はイタリアの政情不安の影響などにより、日経平均株価が下げているが、マーケットの短期的な見通しあるいは中長期的な見通しについて伺いたい。

（鈴木会長）

長期的な見方は従来の見方と変わっていない。これまで「為替次第だ」と申し上げてきたかと思うが、ご存知のように 3 月 23 日に日経平均株価が 20,600 円台のときに為替は 104 円台と底値で、そのあと 5 月 21 日に日経平均株価が 23,000 円台のときは為替が 111 円台であったことからすると日経平均株価と為替は連動している。今日はニューヨークダウ平均株価が下落したことやイタリアの問題で少しリスクオフとなり、円が買われて日経平均株価は下げており、目先は

それほど上振れしないと思っている。当初予定されていた6月12日の米朝首脳会談の開催の動向が明らかになるまでは大きく動きづらいのではないかな。

ただトータルで見れば、3月期決算の前年同期比でみると経常利益が実質的には16.9%増と大きく伸びており、発表した企業の今年度の予想を見ると、平均で経常利益のプラス1%ぐらいの伸びが予想されているということで、かなりコンサバティブにみている。

報道によると、企業が今期の想定為替レートは平均106円ということなので、110円台まで円安になれば、結果的には過去最高益をあげることができるのではと思っているが、PERの倍率が世界的に少し下がっているので、上限は少し下振れするかもしれない。ただ、大きな流れは変わっていないと思っている。

（記者）

まもなく就任から1年が経とうとしているが、この1年を振り返ってどのような1年だったか、次の1年をどう迎えるかについて伺いたい。

（鈴木会長）

当協会の会長に就任してあっという間の1年であった。当協会として見れば、昨年7月に掲げた「当面の主要課題」を順調に実行することが出来たと感じている。また、協会員の皆様にも大変協力していただいた。最重要施策として大きく掲げた政策の一つである「つみためNISA」の円滑な導入についても非常に協力していただき、またSDGsの施策に関しても、各協会員の代表の方に「証券界での取り組みは非常に良い」と賛同していただいた。そういう意味ではこの1年は順調だったと感じており、次の事務年度も引き続き皆様の協力を得ながら、掲げた政策をできるだけ実行していきたいと考えている。

（記者）

先般、丸井グループが証券業に参入する旨の発表があったが、証券業への異業種の参入について、会長の見解を伺いたい。

（鈴木会長）

私は大変ウエルカムであると考えている。こうした異業種から新規参入した証券会社は、従来の証券会社の顧客ではなく、自分たちの

持っている顧客である投資経験のない顧客層を開拓していただくことになると思う。

こうした投資経験のない方たちを開拓していくという意味においては、「つみたて NISA」の基本的な考え方と全く同じであり、当協会としても本当にウエルカムだと思っている。

そういう意味では、異業種から参入した証券会社が投資未経験層の取り込みに成功することで、また更に多くの企業がこの業界に参入してくることを期待している。

（記者）

冒頭の質問と関連するが、ニューヨーク証券取引所の社長に女性が就任することについての受け止めと、証券界では女性がトップに就くケースはまだ少ないと思うが、今後証券界としてダイバーシティの進め方・あり方について、会長の見解を伺いたい。

（鈴木会長）

ニューヨーク証券取引所の社長に女性が就任することについては、大変素晴らしいことだと思っている。米国でも話題になるぐらいなので、本当に画期的な事ではないか。我々日本の証券界でも SDGs の 2 番目に女性活躍支援を掲げて鋭意取り組んでおり、当協会でも SDGs 推進室を設置して、業界をあげて取り組んでいるところである。

証券界に限らず、我が国のどの会社をみても、女性の役員候補の数は非常に少ないのが現状であると思うが、我々証券界としては、女性の役員又は管理職候補の母集団の数を何とかして増やしていき、昇格比率が男女半々になるよう、力を入れていきたいと思っている。残念ながら証券界は今一つ遅れているので、この話を聞いてまた一段と力を入れていこうと再認識した次第である。

以 上